

市長とミライとーく 報告書

令和7年10月22日

日 時	令和7年10月15日（水） 15：00～16：30		
会 場	関市役所7階 つなぐガーデン（関市若草通3丁目1番地）		
対 象 者	関市の若手農業者	参加者	10人
テ ー マ	持続可能な農業への取組について話そう！		
担 当 課	産業経済部 農林課		

【参加者からの意見】

トークテーマ① 関市の農業の魅力（農業を始めたきっかけ）

<関市で農業をすることの魅力>

- ・圃場が整備されており、広い農地を確保できること。
- ・綺麗な水があること。
- ・農家の代替わりの時期で、農地の管理を依頼したい人が多く、比較的農地の確保がしやすいこと。
- ・新規で就農するにあたって助けてくれる人が多いこと。
- ・災害が少なく、地域によっては獣害の被害も少ないこと。

<農業を始めたきっかけ>

- ・代々農業を営んでおり、継承して農業を始めた。
- ・趣味で農業を始めたが、仕事にしたいと思った。
- ・無農薬の野菜を食べ、自分でも作りたいと考えた。

<新しく農業を始めた方がいた場合おすすめできるか>

- ・農地や畜舎の場所の確保や、畜産の場合は最初の牛を飼うための初期投資の負担が大きく、新規での就農は難しいと思う。
- ・新規で就農した場合、継続して経営していくことが難しいと感じる。

市長とミライとーくの様子

トークテーマ② 持続可能な農業への取組

- ・肥料や種は輸入されているものが多いが、輸入がされなくなったことも考え、種もみは自家採取、肥料や農薬も使用しないようにしている。
- ・新規で就農したが、農業を継続しようとすると、事業拡大なども必要だが現在の公的支援だけでは心許ない。
- ・農産物の価格変動が大きく、規模拡大や従業員の雇用などが計画しにくいため、一定の金額で安定すると嬉しい。
- ・先進（スマート）機械の導入などで業務効率を上げている。
- ・環境のことを考えれば、有機などの栽培方法も必要だと感じるが、実際に農家として暮らしていくことを考えるとなかなか難しい。
- ・農家同士や消費者と生産者といったコミュニティを作ることで安定的な経営ができたらしい。
- ・耕作放棄されている農地が多くあり、もったいないと感じる。
- ・労働力の確保をしたいが、農繁期のみの雇用などは働いてもらえる方の募集がなく、苦慮している。
- ・他の業種で農産物や農業で発生する副産物を利用してもらうなどの取組ができたらしい。

【参加者からの提案】

- ・新規で就農する人向けの施策や農業に関心を持ってもらう施策も大切だとは思うが、頑張って農業を続けている人に向けた支援もしてほしい。
- ・他の業種と一緒に取り組みたいと思ったときに1農家だけでは難しいため、市として取りまとめてもらえるとありがたい。
- ・堆肥を作っているが、農家の使用する時期が集中しており、堆肥を使わない時期に余剰がでてしまう。堆肥をストックできるような施設があるとよい。
- ・毎週や毎月など、定期的に朝市のようなものをやってほしい。

【担当者の考え方】

「持続可能な農業」といった難しい話題に対し、参加者の方がそれぞれの視点からご自身の考えを話していただき、大変参考になった。特に、環境視点からの持続可能な農業と経営視点からの持続可能な農業では考え方方が大きく違い、どちらの視点も重要であるため、バランスを考えながら施策を進めていく必要があると感じた。

また、今後継続して農業を続けていくうえで不安に感じている部分や、困っていることなど農家さんの正直な思いを伺う事が出来たため、今後の施策検討の際には参考にしていきたい。

【今後の対応】

- ・持続可能な農業への取組の推進
- ・農業振興施策の見直し、検討

市長とミライとーくの様子

